



「こころづかい」と「おもいやり」を『カタチ』に！～人権週間～

今日、6/26（月）から「校内人権週間」です。自分や友だちの良いところに気づき、みんなで楽しい学級、楽しい学校をつくらうとする態度を育て、子どもたちがお互いに認め合っ
て、助け合っているようにすることをねらっています。

心に残る広告がありました。2011年の東日本大震災の後に流れていたテレビ広告です。



『行為の意味』
宮澤 章二

「こころ」は
だれにも
見えないけれど

「こころづかい」は
見える

「おもい」は
見えないけれど

「おもいやり」は
だれにでも 見える

その気持ちを
「カタチ」に

今日、全校の子どもたちと詩人、宮澤章二さんの詩「行為の意味」を読んで、「思いやりの心」、「心づかい」の大切さについて考えました。

子どもたちの心の中には、温かで純粋な「思いやりの心」がありますが、それはいつも見えている心ではありません。しかし、「大丈夫？」のような、たった一言の言葉かけで「心づかい」が見えることがあります。

言葉をかけることが苦手な人でも、『微笑みかける』だけでも「思いやりの心」は伝わります。『そっと手を貸す』、『黙ってそばにいてあげる』・・・小さな行為ですが、その人の「心づかい」が伝わる姿です。

温かい心が、温かい行為になり、優しい思いが優しい行為になる時、「心」も「思い」も、初めて美しく生きてきます。子どもたちには、「思いやり」も「優しさ」も、できることから『言葉にする』、『行動に移す』ことで伝えることができることを、実感してほしいと願っています。

「こころ」は見えないけれど、「こころづかい」は見える。「思い」は見えないけれど、「思いやり」は見える。

子どもたちには、この言葉を忘れずに学校や家庭での生活を送ってほしいと思います。

校長 藤井 朗

【人権週間の取組】

- 人権に関わる週目標をそれぞれのクラスで設定する。
- 今月の歌「世界で一つだけの花」を朝の会等で歌い、その歌詞の意味を考える。
- 人権標語を考え、代表の作品を職員室の廊下に、他の作品をそれぞれの教室に掲示する。
- 人権に関わる本を各クラスで「読み聞かせ」をして、話し合う。
- お互いのよさをほめ合い、認め合う「グッドカード」の取組を実施する。